17　　松の葉に降る雪　　　　　　　　　複数の和歌が含まれる文章での練習

故兵部卿の宮、若男にて、一の宮と聞こえて、色好みたまひける頃、承香殿はいと近きほどになむありける。らうあり、をかしき人々ありと、聞きＡたまうて、物などのたまひかはしけり。さりける頃ほひ、この中納言の君に、忍びて寝たまひそめてけり。時々Ｂおはしまして後、この宮、をさをさ問ひたまはざりける頃、女のもとより詠みてたてまつりける。

　人をとくあくた川てふ津の国のなにはたがはぬ君にぞありける

かくて物もⅠ食はで、泣く泣く病になりてⅡ恋ひたてまつりける。かの承香殿の前の松に雪の降りかかりけるを折りて、かくなむＣ聞こえたてまつりける。

Ｘ　来ぬ人をまつの葉にふる白雪の消えこそかへれあはぬ思ひに

とてなむ、「ゆめこの雪おとすな」と、使ひに言ひてなむＤたてまつりける。

【本文チェック】

①傍線部Ａ～Ｄの敬語の敬意の対象は、ア御息所・イ中納言の君・ウ故兵部卿の宮・エ使いの者のどれか。それぞれ〔　〕に記号で書きなさい。

Ａ〔　　　〕　Ｂ〔　　　〕　Ｃ〔　　　〕　Ｄ〔　　　〕

②二重傍線部Ⅰ・Ⅱを現代語訳し、（　）に書きなさい。

Ⅰ（　　　　　　　　　　）

Ⅱ（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

③Ｘの和歌から掛詞を二つ探し、それぞれ【　】内に漢字を用いて書きなさい。

【　　　　と　　　　】　【　　　　と　　　　】

【語彙力 ✚】

問１　次の語句の意味について、空欄を埋めよ。＊〔数字〕はノート本冊での本文の行数を表す。

１　らうあり〔２〕　　　　　（　　　　　　　　　　　　　　）

２　ゆめ～（な）〔10〕　 　 ①（　　　　～　　　　　　　　　）

②まったく～（ない）

問２　次の傍線部の意味として最も適当なものを選べ。

１　何にかく心づくしなることを思ひそめけむ。（源氏物語）

ア　はじめ　　イ　続け

ウ　こがれ　　エ　かね

（　　　）

２　月もなういと暗きに、「女房や候ひたまふ」と、声々して言へば、（今鏡）

ア　いらっしゃい　　イ　おいでになり

ウ　お仕えし　　　　エ　待機し

（　　　）

【文法力 ✚】

問３　次の和歌に含まれている修辞技法を選べ。

１　ひさかたの光のどけき春の日に静心なく花の散るらむ（古今集）

２　滝の音は絶えて久しくなりぬれど名こそ流れてなほ聞こえけれ（拾遺集）

３　住の江の岸に寄る波よるさへや夢の通ひ人目くらむ（古今集）

４　花の色は移りにけりないたづらにわが身世にふるながめせし間に（古今集）

ア　掛詞　　イ　枕詞　　ウ　序詞　　エ　縁語

１（　　　）　　２（　　　）　　３（　　　）　　４（　　　）

問４　次の文章（「大和物語」の現代語訳抜粋と作中歌）を読み、後の問いに答えよ。

　逢瀬の約束をした夜、女は待つが、夜が更けても男は来ない。夜警の者に時刻を聞くと「つ」と答えたので、男のもとへ手紙を送った。

　　人心Ａうしみつ今は頼まじよ

　男は目を覚まして、下の句をつけて送り返した。

　　夢に見ゆやとＢねぞすぎにける

　しばらくと思って、ふと休んだ間に、寝過ごしてしまっていたのだった。

⑴　女の歌に込められた心情として最も適当なものを選べ。

ア　来るといったあなたの心を信頼して、待ち続けています。

イ　他人にあれこれ言われて心変わりしたのではと、心配です。

ウ　不安で心が落ち着かない今、あなたとの約束だけが頼みです。

エ　あなたのいい加減な心がわかったので、もう期待はしません。

（　　　）

⑵　Ａ「うしみつ」・Ｂ「ね」は掛詞になっている。それぞれ適当な漢字を当てて全体を表記せよ。

Ａ（　　　　　　　　・　　　　　　　）　　Ｂ（　　　　　・　　　　　）

【探究】調べてみよう

問５　Ｘの歌は「来ぬ人をまつの葉にふる…」と詠まれているが、「来ぬ人をまつ」と詠まれている他の和歌を調べて、一首挙げよう。

〔

〕

【解答】

【本文チェック】

①　Ａ＝ウ　Ｂ＝ウ　Ｃ＝ウ　Ｄ＝ウ

②　Ⅰ＝食べないで　Ⅱ＝恋い慕い申し上げた

③　松（と）待つ／経る（と）降る

問１　１＝物事によく通じている　２＝決して～するな（しないように）

問２　１＝ア　２＝ウ

問３　１＝イ　２＝エ　３＝ウ　４＝ア

問４　⑴　エ　　⑵　Ａ＝丑三つ・憂し見つ　Ｂ＝子・寝

問５　観点　インターネットでは和歌のデータベース、書籍では和歌についての辞書・辞典類で索引から探すことができる。

【現代語訳】

問２　１　どうしてこのように苦労の種になることを思いはじめたのだろうか。

２　月もなくたいへん暗いときに、「女房はお仕えしなさるか」と、（大勢の）声で

言うので、

問３　１　光がのどかな春の日に、どうして落ち着いた心もなく、桜の花は散り急ぐのだろうか。

２　滝の水音が絶えてから長くなるけれども、名高い評判だけは、今も流れ伝わって、世に聞こえていることだよ。

３　住吉の海岸に寄る波ではないが、（昼ばかりか）夜までも、夢の中の恋の通い道で、私はどうして人目を避けているのだろうか。

４　桜の花も私の容色もすっかり衰えてしまったなあ。むなしく我が身に降る長雨を眺め暮らし、物思いに沈んでいるうちに。

問４　女の歌　丑三つ時になってもあなたが来ないことから、あなたの心がつらいものだとわかりました。今はもう、あなたのことを頼みにはしないつもりですよ。

男の歌　眠ったら、夢にあなたが現れるかと思って寝入ってしまったところ、寝過

ごしてしまって子の時を過ぎてしまったことよ。